

日本原子力学会 核燃料部会
令和2年度第三回運営小委員会議事録

日時 : 令和3年2月22日(月) 13:30~16:10 於 WEB会議(Webex)

出席者 : 宇埜部会長, 加藤副部会長, 大江副部会長, 阿部委員, 天谷委員, 大堀委員, 尾家委員, 川西委員, 黒崎委員, 佐藤委員, 篠原委員, 園田委員, 竹野委員, 谷口委員, 橋爪委員, 原田委員, 樋口委員, 松永委員, 松本委員, 柳沢委員, 渡部委員, 山内(記)

議事

1. 前回議事録等の確認(資料1)

山内から, 前回(令和二年度第二回)運営小委員会議事録を紹介した。また, 事前にメールにて確認済みである旨紹介し了承された。

2. 令和2年度収支実績と令和3年度予算案(資料2)

山内から, 令和2年度の収支実績および令和3年度予算について紹介した。夏期セミナーに関しては, 3部会で調整し, Webでの開催が決定しているが, 現地開催を参考に, 予算を計上している。なお, 繰越金取崩については, 予算計上していないため, 使用する際は, 学会事務局に確認が必要である。

また, 令和3年度の予算の支出合計に誤記があるため, 修正する。

3. 核燃料部会・部会賞(学会講演賞, 奨励賞)について(資料3)

園田委員から, 2020年秋の大会学会講演賞の以下の2名に受賞者が決定していること, および結果について, 応募者5名に周知済みの旨, 報告があった。

2020年度の奨励賞については, 応募なしとすることについて承認された。

・ 服部 亮平(東京都市大学)

講演題目:「高レベル放射性廃棄物作製時における不溶解残渣(白金族合金)の蒸発挙動に関する研究」

・ 田崎 雄大(JAEA)

講演題目「MOX燃料ペレットの微細組織の非均質性を考慮した核分裂生成物ガス放出モデルの検討」

また, 学会講演賞の受賞者への表彰状および記念メダル授与は2021年春の年会・核燃料部会全体会議(3/19金)にて受賞紹介を行った後に郵送すること, および, 表彰状は原子力学会事務局に印刷を依頼し, 記念メダルは業者に発注することおよび見積もりについて了承された。

園田委員から, 2021年春の学会の部会賞(学会講演賞)の募集について, 運営小委, および企画小委にメールにて募集の協力依頼を出した旨, 紹介があった。現在, 応募が1名の状況のため, 再度, 運営小委に, 応募に関する協力依頼があった。

4. 企画小委員会の概要について（資料 4）

加藤副部長から、2月19日に開催された企画小委員会の紹介があった。

日本原子力学会誌の連載講座については1～5は作成済み、6は2021春の学会の企画セッション終了後に黒崎委員が作成する旨、紹介された。

5. 2021年春の年会での企画セッションについて(資料 5)

黒崎委員より、2021年春の年会の企画セッションについて、発表者が決定し、学会に報告済みであることが紹介された。企画セッションは、3月19日13:00～14:30、K会場にて開催される。総合討論の詳細については、座長である宇埜部会長および黒崎委員で調整することとした。

なお、黒崎委員から、軽水炉燃料の講演者については、宇埜部会長とし、連載講座の著者等の関係者が質疑対応でスタンバイすることを調整済みであることが紹介された。

6. 令和3年度 3部会合同夏期セミナーの開催について（資料 6）

渡部委員より、令和3年度の3部会合同夏期セミナーについて、進捗が紹介された。

- ・ 3部会合同で開催すること
- ・ リモートで開催すること
- ・ 令和3年8月10日、11日に開催すること

今後の調整事項の方針は以下の通りである。（渡部委員が担当）

- ・ 総合テーマの核燃料部会案は、「福島第一原子力発電所事故後10年の節目を迎えて」とすること。
また、前回の3部会合同時の発表者等の状況を確認し、発表者を調整すること
- ・ 企画枠の提案は、春又は秋の原子力学会で講演賞を受賞した方による講演とし、各部会2名選出すること
- ・ トピックス講演2の提案は、水化学部会、材料部会もテーマを選定しやすいと思われる燃料デブリ関係とすること
- ・ 核燃料基礎講座はPWR燃料の基礎講座とし、トピックス講演1はBWR燃料の基礎講座とすること
- ・ 部会等主催の教育的プログラム（CPD）に登録すること
- ・ 三部会で夏期セミナーのプログラム等の調整が完了後、5月頃を目安に、核燃料部会報及び学会MLにて周知すること

7. 令和3年度部会業務分担について（資料 7-1～3）

山内から、来年度の業務分担について、説明し、以下の内容が、了承された。

- ① 加藤副部長を次期部会長候補とすること

- ② 佐藤委員を次期副部長候補とすること
- ③ 国際活動を次期副部長候補の佐藤委員とし、その他の担当も資料 7-1 の通りとすること
(代議員については、2021 年度、2022 年度を加藤副部長 (次期部長候補) および大江副部長として推薦済み)

加藤副部長より、全体会議に示す業務分担には、明示する必要はないが、業務分担の管理表 (資料 7-2 に相当) に現在、副部長が担当しているポジションステートメント WG 委員の担当者を明記しておくべきとの指摘があった。

なお、委員の選任は、部会審議事項となっている。4/1 から、委員の切り替えが必要な場合も、3/19 の全体会議にて審議することは可能となっている。

また、前回、宇埜部長より提案があった、部会長を、産業界側でも分担できるよう、調整する件、議論を実施し、以下の意見があった。引き続き、議論を実施していく予定である。

- ・ 副部長を 2 年経験後、部会長を 1 年とすることにより、トータル 3 年になるため、部会長を 1 年毎に交代する案も現実的。なお、もう一年の再任は、可能
- ・ 他部会で、産業界側の部会長の実績あり
- ・ 部会長は、リーダーシップを発揮できる必要があり、産業界側から出す可能性がある場合、各社、社内確認・調整が必要 (各社、適切な役職の人の選出が必要になるため)
- ・ 学会活動は、中立の立場で参加するものであり、産業界側が部会長を担当することは可能 (ただし、燃料は、各メーカー異なるものであり、燃料メーカーの足並みがそろわない状況で、方向性を決めていく必要あり)

8. 核燃料部会全体会議の準備について (資料 8)

山内より、3/19 に開催される全体会議について、活動報告等の資料の準備状況について報告した。

活動報告/活動計画案の内容については、いただいたコメントを踏まえて修正することとした。

本件について、主な質疑、コメントは次の通り。

- ・ 誤記があるので修正すること (平成→令和、名簿をあいいうえお順、等)
- ・ 部会長、次期部長・副部長は出席予定
- ・ ジルコネット等、開催時期が変更になっているので、最新の情報を記載すること
- ・ 部会員数を、部会報担当を調整し、最新の人数を記載すること

9. 核燃料部会報No.56 について (資料 9)

柳沢委員より、核燃料部会報 No.56 の進捗について紹介があった。巻頭言、国際会議紹介、国際交流ニュース等、執筆者の提案が欲しい旨、依頼があった。

- ・ 部会報の原稿の締め切りは、令和 3 年 4 月末
- ・ 学会講演賞の受賞に伴う投稿は、学生が就職するまでにけりを付けたいため、早めに依頼状を発行すること
- ・ HP に新部会長の挨拶をアップする予定。部会報の HP 案内に記載するのか、巻頭言に記載するのか、今後調整
- ・ 樋口委員より、国際交流ニュースは長岡技術大学の鈴木先生にお願いできる可能性あり。部会報のボリュームによっては、お願いしてみることは可能。

10. その他

(1) 「事故耐性燃料の開発」に係る情報共有会議について

事故耐性燃料の開発に関しては、核燃料部会でも、興味がある委員は多数いるため、JAEA 主体で、情報共有する場を設けてもらえれば、参加する委員は多数いると思われる。核燃料部会の情報をもらえれば、運営小委員会のメンバーに周知することは可能である。

一方で、事故耐性燃料の開発は、エネ庁の補助事業となっており、競合他社に公開できない情報があるため、中立な立場である核燃料部会が主催する形で、意見交換を行うことは困難である。

(2) 核燃料部会情報メール（さくらメール）の契約継続について

来年度も、核燃料部会情報メール（さくらメール）の契約を継続することとした。

(3) 次回運営小委員会について

次回の運営小委員会は、令和 3 年 4 月 22 日 13 時 30 分から、開催することとした。

以 上